

1. 事業細目	増養殖技術開発研究・養殖漁業振興事業	予算額	千円
2. 研究名	魚病対策指導・水産用医薬品適正使用指導	予算区分	県単・国補
3. 研究期間	年度～ 年度		
4. 担当者	遠藤、藤岡、高橋		
5. 目的	<p>養殖業における魚病の発生・蔓延を防止し、魚病被害の軽減を図り、医薬品の適正使用を徹底して食品としての完全な養殖魚の生産を確保し養殖業の発展と経営の安定を図る。</p>		
6. 方法	<p>(1) 滋賀県防疫会議……水試、水産課、県内水産団体で構成 (2) アユ種苗ビブリオ菌保有調査……4～6月 野洲、北小松、浜分、尾上の各蓄養池 (3) 巡回指導および魚病診断 (4) 魚病講習会 (5) 水産用医薬品適正使用指導 (6) 養殖魚医薬品残留調査……ア ユ OA30検体、SMM20検体、ニジマス SMM24検体 (7) 地域防疫検討会……水試、醒井、養殖業者、湖西・南・東・北、マス類の5地域 (8) Siga Fish Disease News 毎月1回</p>		
7 結果の概要	<p>(1) 滋賀県防疫会議……昭和62年11月25日、水産試験場において実施 内容 昭和61年度活動報告 昭和62年度活動経過報告 水産用医薬品適正使用について</p> <p>(2) アユ種苗ビブリオ菌保有調査……4月、5月各蓄養池で合計800検体ビブリオ菌検出せず。</p> <p>(3) 巡回指導および魚病診断 巡回件数 47件（1月～12月） 電話相談件数 47件（1月～12月） 魚病診断件数 100件（1月～12月）</p> <p>(4) 魚病講習会……昭和62年11月25日 水産試験場において実施 講師 高知大学農学部 教授 楠田 理一 演題 魚類（特にアユ、ニジマス）の疾病とその予防・治療について</p> <p>(5) 水産用医薬品適正使用指導……防疫会議、巡回指導時に随時指導</p> <p>(6) 養殖魚医薬品残留調査 ア ユ OA30検体 残留なし SMM20検体 残留なし ニジマス SMM24検体 残留なし</p> <p>(7) 地域防疫検討会 昭和63年3月8日 湖西地域 3月9日 湖北・湖東地域 3月10日 湖南地域 3月11日 マス類 内容 昭和62年魚病発生状況 水産用医薬品の使用について (1) 適正使用について (2) 60～62年のアユ・ビブリオ菌の薬剤感受性の変化について (3) 薬剤残留と食品衛生について (4) ホルマリン・マラカイトグリーンの使用と薬浴について 病気予防のための飼育管理</p> <p>(8) Siga Fish Disease News 3月現在でNo.17まで発行</p>		

8. 主要成果の具体的数値

昭和62年 魚病診断状況

* : 2件の細菌性腎臓病は岐阜県の養殖業者

魚種	病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ア	ビブリオ病			2			4	9	6	7				28
	連鎖球菌症								2	5				7
	カラムナリス症		1											1
	細菌性鰓病			1										1
	真菌性肉芽腫症							1						1
	水カビ病	1					2	1		1				5
	ギロダクチルス症			1				1	4	2				8
	エルガシルス症								1					1
	ちょうちん病			1					2					3
	スレ症		1		2									3
飼料性疾病						1	1	1	1	2			1	7
不明														
	計	1	2	5	2	1	7	17	14	17			1	67
コイ	カラムナリス症						1			1				2
	トリコディナ症	1			2									3
	白点病					1								1
	エピステイリス症											1		1
	穴あき病				1		1							1
	水質悪化						1							1
不明						1						1	1	
	計	1		3	1	4				1		2	1	13
マ	I H N		1				1							2
	せっそう病							1		1				2
	細菌性鰓病				2		1	1						4
	イクチオフォヌス症											1		1
	細菌性腎臓病							2*						2
	環境変化									1				1
不明	1			1		1	1					1	5	
	計	1	1	3	3	3	5	2		2		2	17	
ウナギ・ドジョウ	シュードダクチロギルス症						1							1
	カラムナリス症							1						1
	不明								1					1
	計						1	1	1					3
	合計	3	3	5	8	2	15	23	15	20		4	2	100

9. 今後の問題点

- (1) 水産用医薬品適正使用指導の強化
- (2) 魚病情報の収集、伝達の方法の改善

10. 次年度の具体的計画

問題点の部分を強化しつつ、現在の内容を継続